

























●盛んな慰問袋募集

日工は出陣軍人に贈るべき慰  
 養品を、臨時的に募集中なるが  
 の何れも、非常に好成績にて愛國  
 心熱の旺盛に日工事務のよれば同  
 人々も五、六百は贈るなりといふ

願寺なる佛教婦人会  
 會  
 總長は管内の各地に訓令を發  
 出、佛具の募集を命じたるに、五十

勝して三、四十人集めて来る  
 佛具の普の語には、二十、三十

老婆が杖にすがつた  
 といふ

させた婦人團體の送迎振り  
廿四日龍山驛前で記念撮影

記したるが八月末日の通過部隊  
 の九月廿四日以後十八日間  
 に本部役員員其他各學校後窓  
 に毎日早朝より續々  
 同生一同統制振作をなし給  
 へば本部主幹諸君を連年々々  
 時年和氣霽の裡に一同散會  
 今初日以來送同數其の二百  
 記せば送迎人員數二千二百  
 三名、附業者計數二萬餘名

新葉書の配分に或  
るなご心を籠めて  
論教より紐育に航行中廻遊  
艇の爲めに擧げられし極山

●**衷心より**  
満足を表し  
氣持よく萬國露館に北進の途に就  
けり。又、露館の門前にて、露館の建  
築を新造したる等其の温厚なれ  
ば、心より二十日四日は暖後の  
一日、心より二十日四日は暖後の

○**京都漬職事件**  
官邊に飛火士  
十五名は二十三午後歸入  
香取丸にて留置せり。横濱船形

武雄氏は廿四日突然休職京都  
 事件に連坐する事件に依り身  
 金限氏は同夜收監さる  
 詰所廣島に  
 其の他の關係員

紙物の争議

[illegible]

々擴大す  
堤防の決潰夥く

既而東京地方の暴風雨は廿四日午後に至り終絶せるも淀川、大津川は濁流激しく昨年決潰したる大阪府下大津、津川は濁流激しく昨年決潰したる大阪府下大津、堤防危く亦川の廣瀬堤防破毀せるより下流の高隈間一帯に浸水す神戶にては行方不明の者六十名、船舶の流

めしはらのみつほの國のよろつ  
もみたれぬ道はかみそひらきし  
昭憲皇太后御歌

大皇帝陛下の御業を奉讃致すこと  
 致して居ます。私の奉讃する間際  
 まででございます。

◆講演の前には必ず  
 大皇帝陛下の御業を奉讃致すこと  
 致して居ます。私の奉讃する間際  
 まででございます。

◆朝鮮にも  
 大皇帝陛下の御業を奉讃致すこと  
 致して居ます。私の奉讃する間際  
 まででございます。

のであるが精神を失つてはならぬ。形式は内に誠があつてそれが現れるのでなければならぬ。形の

なるなり云(吳龍報) 一

●校長排斥運動  
岐阜中學校生徒、校長に辭職勧告を提出す  
岐阜縣立中學五年生は、校長に對し、職勧告書を提出し、事柄頗るかな

●朝鮮紙對京城  
丁六垣再報

京成貨物同なる朝鮮紙株式會社  
這回黃金町一丁目の京成紙物同  
社を相手取り黃金町一丁目外一

暴風雨

明者六十名を出す  
 後に至り終熄せるも淀川、大坂府下大

明の者六十名、船舶の漆  
京都府下、水増水し、伏見町浸水無難氏  
は爲に不通なれり（六張新聞）

大<sup>だい</sup>意<sup>い</sup>を説<sup>と</sup>く考<sup>こう</sup>へて特<sup>とく</sup>に御<sup>ご</sup>製<sup>せい</sup>御<sup>ご</sup>歌<sup>か</sup>  
講<sup>こう</sup>議<sup>ぎ</sup>さては致<sup>いた</sup>さぬ。古<sup>こ</sup>來<sup>らい</sup>禮<sup>れい</sup>の事<sup>こと</sup>  
就<sup>すなは</sup>ては和<sup>わ</sup>漢<sup>かん</sup>共<sup>ども</sup>に學<sup>まな</sup>者<sup>しや</sup>が随<sup>ず</sup>分<sup>ぶん</sup>

を折つて研究を爲し支那では彼  
三禮(周禮、儀禮、禮記)なきに云  
様な書物を拵へて之れが

◆朝鮮にも餘程普及  
て居る様である。先般丁巳釋典

のであるが精神を失つてはならぬ。形式は内に誠があつてそれが現れるのでなければならぬ。形の

時正に秋、在鮮學生の辯論に活躍す可き  
 好時季也、茲に第一回學生辯論大會を開  
 かん、とす、舌頭三寸、滔々懸河の辯、噫何

等の痛快事ぞや、來れ！聽け！

◆期日 十月十七日（神皇正統記午後零時開會）

◆場所 日の出小學校講堂

◆参加 醫學專、工專、京中、平中、釜中、龍中  
校名 農林、仁商、普商、東協（其他未定）

◆其他 入場無料 詳細は追々發表す

主催 東京協會  
主 京 城 專 門 學 校  
司 服 士

會社側の専務取締役日登津氏總  
海に出頭し同會社側の不意なる  
爲の取締方を斷出でたるが其の

◇ 狐 兎 兎

處ありたりされば兩社とも從  
總度を改めの日、示談を進め居

兩社の軌轢に就き調査  
光臨、門外にて

哀話 (二)

宣徳を僞つて蓋  
料心生活する餘  
何時も仲よく遊  
養育部でも、  
取りに來たら、また擲けた  
他前日に單子車親さ思へな  
太切にくく可愛なるので不潔  
つてはんを咄められた。そ  
歴代は昔何時も一縷に二人  
で來るのか？ 賢さ。此の男は  
かきく「い、ちやうど私

たが、やはり男の云ふ事さ聞  
あつた、最う子供は乳もいら  
なつたが、餘り二人が太切に

かねてのまゝにして預けてある人から彼の親切し、男はまゝ其の生計はばかりの赤ん坊をて来た。そして、その兄は平日何處かの婦人が私の家へ連れて其處で、手用を達して來てらぬがつて呉れ、出て行つ

の事であつた。部長は前の通  
承諾して乳母の世話をお願い  
した。直一人の若い女を運

であるか。我國は昔から小  
 國で、戦ひを致すにも、何れも善を持つ  
 べきに、是等の事は、私中、すなほ  
 居た。客に申す、さう交際  
 した。客の事である。聞かしては  
 國國等々の交際がある。外國の  
 史に於ては、戰争の起るの由、大  
 して戰争の原因を作つた點なく  
 もある。それか、さうして、實に  
 きたるは及ばざる。如して、庶民  
 適當にする。こは、恥事ある。

來て、この人は澤山出た。この  
 を、くして、兎も、澤山出ること  
 され、擯ける事、なつたが、  
 せう、こ、彼の男の體子が、  
 ので、先づ、起はなれたし、た  
 先づ、奮奮、へ、起して、呉れる、

〇 再び三四交、あつた。

さて、可、く、つて、手、離、せ、な、い、  
 の、子、に、果、れ、ど、何、う、し、て、も、  
 ない、無理、無理、に、その、子、を、奮、  
 へ、進、め、つ、て、現、在、先、々、さ、あ、へ、  
 の、子、供、等、喜、ん、だ、と、い、つ、て、離、れ、て、

云ふのは、或は婚禮、或は慶賀式、  
は饗宴、或は飲食の禮、云ふ様な  
事である。

養育院へ連れて來て、頗る里  
して娘に育てさせて、養育科の  
をやつたのである事が知れた。

人情 連載 實録 奥州 白石 嘶し

伊豫松山市本町七  
 古着却出 豊盛  
 意 活劇遺傳の罪  
 廿六日より上場  
 黄金館

京田案入

●金繼（日本）地方へ御越見速達  
 東京大和家へ入會候御報  
 ●電話話物三三三三起木  
 公平洞五七番地  
 水部（日本）物也小倉四  
 電話一八五番文四〇五五  
 金細工職人御探  
 裁縫女入用  
 裁縫女入用

安賣物 資木に四  
 より百五十乃至七八百圓の  
 あり有利事至急譲る希望者  
 直接之細談 (姓名存社)

貸家  
 官吏會社員向格拾七間電  
 湯殿庭園佃付二年前  
 高麗人蔘製藥  
 醬油販賣店員  
 賣揚步合月取貳拾元以上本人用  
 龍山元町二 關西商會醬油  
 電話三五

**分枋** 銅床調直  
電話一三四四 東亞煙草長谷川  
**分丁場** 京鑛物試驗所  
鐵道入城  
有外勤社員數人

[illegible]

長電引櫻井町一ノ一九八  
五〇番 博多屋本三

[illegible]



